

戊辰戦争と新選組、裏磐梯

写真・文責 石田明夫

裏磐梯と戊辰戦争

(旧暦です。今では約1カ月半後の時期になります)。

8月21日(現在の10月6日)、母成峠の戦いのあと、新選組は、大原村から秋元原を経て、大塩へ行きます。斎藤一は、母成峠の戦いでは、最後まで抵抗しました。大鳥圭介らは、戦いの後に若松方面へ行きます。土方歳三らは、藩主松平容保とともに若松に留まっていました。

8月22日 母成峠で戦った新選組は、多くが若松の天寧寺へ行きます。
その日、松平容保の弟、桑名藩主は、磐梯山麓の磐梯町大寺口へ進みます。

8月23日、桑名藩は、若松城下の北東入口の蚕養口で戦います。新選組と旧幕府軍、桑名藩は、会津盆地の中央に位置する塩川へ転戦します。

裏磐梯の大塩(北塩原村大塩の裏磐梯大塩温泉)では、土方歳三が大鳥圭介に対し、新選組のことをよろしく頼むと依頼します。

8月24日、桑名藩は、前日の攻撃で18人が戦死しました。そして塩川町に撤退しました。

8月27日、桑名藩は先行が米沢に入りますが、米沢藩から冷たくあしらわれ、入ることができず、本隊は米沢移行を断念し、福島へ行くことになります。

8月29日、桑名藩本隊は、裏磐梯の大塩温泉に留まり、温泉に入ります。

9月3日、新選組の土方歳三らは、会津と福島に境に位置する土湯峠を越えて、福島盆地に入り、福島から仙台へ行きます。その後、箱館へ行きました。

9月4日、会津盆地の西に位置する西会津町と、喜多方市山都町において、大鳥隊らが戦います。土方隊らと分かれた会津の新選組も参加します。

9月5日、会津の新選組斎藤一らは、会津若松神指城町の神指城二ノ丸で新政府軍に襲われます。約18名。全滅しませんでした。約15人は生存しています。

9月8日、米沢藩が新政府軍に加担し、福島 of 桑名藩を攻めたので、9日には、桑名藩士らは仙台へ行きました。

その後、桑名藩は庄内藩へ行きました。

大塩宿の村人は、周囲の山奥へ飛散し、大塩宿には、誰もおらず、大事なものや食べ物の多くは残されていませんでした。

